

令和2年度 第1回 第3次加西市男女共同参画計画策定委員会

日時：令和2年9月16日（水）13：30～

場所：加西市役所1階・多目的ホール

協議事項1 男女共同参画と第3次加西市男女共同参画計画（策定概要と年間スケジュール等）について

協議事項2 計画の方向性について 【事務局より説明】

中村委員長

国際的にSDGsという言葉が出ていますが、カラフルな図を見たことはあると思います。その図の5番目にジェンダー平等という言葉が出ていまして、ジェンダー平等を実現しようと国際的に言われています。

ジェンダー平等は、性別に関わらずにということなんです。SDGsが根本にあります。国の方もそうなんですし、国際的に動いている中で日本だけが知らないというわけにはいきません。絶対にやらないといけません。

残念なことに日本は、G7、経済大国、先進国と言いつつ日本は121位です。スタートは97位でしたが、あつという間に100位、101位、111位、121位に下がっています。なぜかという経済分野、政治的な分野に圧倒的に女性がいません。組閣もされましたが20人、うち女性は2人、10%です。この数字は国会議員の女性比率と同じです。国会議員になる女性がいらないから、当然、組閣をしてもそれくらいしか人が出てこないため、国レベルでも大変問題視しています。

加西市の現状も、市議員の女性が1人です。人口の半分は女性なのに、女性の思いを汲む人が議会にいないというのはおかしい構造です。そこも問題だろうと事務局さんも考えていらっしゃると思います。大きな柱としてワーク・ライフ・バランスの促進、これは職場の問題であり家庭の問題です。家庭の中の問題と職場の中の問題が解決しないと、女性は家事も育児も仕事も介護もやらないといけない世の中になってきているので、何とかしないとダメだと思います。それと暴力、DVも問題です。それが大きな三つの柱です。皆さん、何かご意見ありますか。

金澤副委員長

現状はそういう状態であるため、変えないといけないのはわかっていますが、問題はそこからだと思います。今、家庭の中や職場の中でそれぞれどんな取り組みをするのが問題であって、例えば、私は区長をしていますが、確かに区長は恐らくすべて男性ではないかという気がしています。総会が開かれたら参加者の99%が男性で、中にはご主人の代わりに女性が来ることもありますが、それが現状だと思います。その現状を打破するためには、長が

集まって話し合いをして今後、こうできたらいいですよと市民の方にお伝えしてやっていくこと、どうしていくかの階段がとても高いのが現状です。

中村委員長

おっしゃる通りだと思います。プランができて、細かい各課の施策ができたときに、各課で何ができるのかということに加えて、施策を打つにはお金が必要なので、予算をとることが大事だと思います。どこの市も予算はどんどん減っている中で、地域、家庭が変わっていくためにうまく運用していくことが大事だと思います。

谷勝委員

加西市は働いている女性が多いと先ほど出ていましたが、一件の家に女二人はいないという考え方が一部地域にはあると思います。だから女性は働きに出る。ただ、その収入が自由に使えるのかどうか。今、女性は比較的自分の通帳をもっているように思いますがどうなのでしょう。

馬渡委員

家庭によりますが、自分は給料が入る通帳を持っています。生活費は家に入れますが、残りは自由に使えます。

廣瀬委員

社会福祉協議会は非常に女性が多い職場です。周りの職員に話を聞いていると、自分の分と家庭の分を分けている人が多い印象です。女性二人も家にいないというのは職員も話していることで、お義母さんたちが家にいるから、お仕事に出る方も実際にはたくさんいらっしゃるのかなと思います。また、生きがいつくり、気分転換というところで仕事をさせている女性が非常に多いのかなと感じます。

ボランティアの方でもそういう方がいらっちゃって、やっぱり家の中にこもってしまうと気分転換にならないので、活動をしていますというお声を女性からよく聞いたりしています。

中村委員長

そういうことは子育ての場でも進めていて、ワンオペ育児で追い込まれる前に子どもを預けて、パートでもいかないと虐待が起きたりすると思います。

河原委員

例えば、お家の方が用事ができたとか、仕事がお休みでも子どもを預かることも、子育て支援の一つだと思っています。

中村委員長

保育指針が変わって、子育て支援という支援の色が濃くなっていますよね。

事務局

加西市のファミサポはこの4月から幼保の方に移っています。

中村委員長

ファミサポを利用するのに、預ける理由はパチンコ行くためでも、カフェでお茶するためでも何でもいいといつも言っていて、そういった内容のチラシを作ったことがあります。

夫が協力をしていたら、第二子、第三子を産んでいるということがデータで出ています。今回、国の方のプランも男性も家事・育児参画のように、章立てが変わってきています。働き方プラス家庭参画をしてくださいとしています。

沼澤委員

男女がある意味で平等になってきている面もありますが、まだ働き方などの面では社会の見る目が女性は育児が中心であるようになってしまっていると思います。就職をしても子育てのために退職せざるを得ず、育児である程度の年齢になるまで、フルタイム的な働き方が難しく、短時間労働になってしまう上に、男性は外でフルタイムで働いているので、女性が仕事プラス家事をするという古い流れがまだ残っているのが現状です。

ただ、昔に比べると女性も意見が言いやすい環境になっていると思います。もちろんDVなど色々な諸問題等がありますが、環境は少しずつ変わっていると思います。残念なことですが、社会保障などの基礎的な知識を知らず、ただ単に余裕ができて時間が空いたから働こうという形になっています。家庭内で男女が平等になってきていても、世間的・社会的にはどうしても男と女の差がまだあると思います。一挙に1年、2年で同等にしていくということは難しいと思うので、1個1個投げかけ、施策も考えていくと少しずつ改善していけるかなと思います。

中村委員長

おっしゃる通り、残念なこと社会保障については学校教育で教えていないです。

女子大生の授業のお手伝いをさせてもらっていますが、何も知らずに夢のように専業主婦になって、夫の収入が一千万程あってと、そのように考えている子もいます。働いている女性は何を思っているかという、十数年前の話ですが、証券会社でバリバリ働いていた女性は、1人目は仕事と両立できていたが、2人目を産んだら仕事ができないから辞めたと、次復帰しようとしても自分の思う仕事ではなかった、そのことは、誰も私に教えてくれなかったと。

学校教育などで専業主婦を選ぶとこうなる、パートで働くとこんな壁があるということを教えてほしいと思います。

沼澤委員

扶養の意味は、大きく分けて二つの意味があり、社会保険と所得税をわかってない人が多く、社会に出て行かれるときにステップアップを知らなかったら、色々な所で不利になります。

淵脇委員

市の資料の棒グラフで見るとの通り、加西市がいい位置にランクインしています。

先ほどお話にありましたように、すぐには変えられるものではない中で、ただ漠然とした目標を立てるのではなく、数値目標をきっちり立てるといいと思います。数値目標として県内での順位をあげるのか、平均以上にするのか、一度にはできないが、数値目標を立てて、目標を計画の中に入れて、目標を達成するために9年間でどのような取り組みをしていくのかを計画の中に入れて、そうすると9年後には変われるのではないかと思いますし、変わったよねと認識できるのではないのでしょうか。変わったという意識が持てるような施策が大事だと思います。

私は区長もしているのですが、なんとか女性を町の役員の中に登用したいと思っていて、やっと今年福利厚生部に女性の部長を一人登用できたので、将来は区長に女性がと思いますが、非常にハードルが高く、町の中に一人二人と増えてくればいいなと思います。

片岡委員

今は、二世帯や親と同居する人が田舎でも少なくなりました。昔は、多くの人が親と同居で生活していたので、嫁の立場から意見を言ったら「親に向かって嫁がそんなこと言うのか」と怒られるので、ある程度辛抱してましたが、今の息子の嫁は話をすることがあまりないし、自由気ままで昔では考えられない生活をしていて、うらやましいなと思います。

ゴルフなど、些細な運動ですが男性の話を聞いてると、「家に帰って嫁に聞かなあかん」「家に帰ったら頭を下げて」と話をされるので、時代が変わって自分たちのときとは違い、女性は強くなったなと思います。

中村委員長

高齢者世帯で調査すると、女性は自立できています。ある意味、男性はお金を稼いでくるATMみたいなもので、家の事はできないし、食事一つでも妻に頼っています。そうなってくると、男性は偉そうにしていたら駄目だと思います。

私たち世代の60代の夫婦で男性はしんどいと思います。高齢者の中の男女共同参画は一つの大きなテーマです。高齢者の数は多く、男性の単身の高齢者の増加も問題の一つです。

竹内委員

今までの話の流れと私の意見・実感は少し違っているのですが、農業を夫婦でやっている中では、男だから女だからというのがあまりありません。男女で仕事の区別はなく、夫と同じことをしています。また、男だから女だからといった差別的なことはあまり感じていません。

中村委員長

国の方では農業女子という大きなプロジェクトを立てています。人口減で農業の担い手が男性だけでは足りないため、女性の担い手も増やそうということです。

おっしゃる通り、農業が案外ジェンダーに囚われていないところだと思います。

竹内委員

男・女として考えるのではなく、そもそも一緒にやらないと、特に家族でやっているような所はやっていけません。

中村委員長

国でも言っているのですが、農業を家族でやっている所の問題は、例えば3人で一千万の収入があったときにどう分配するのか、夫婦でやっていて同じですというのではなくて、雇用者として従業員としての制度があります。それで、給料を割らないと、先ほどおっしゃる通り、労働は一緒だけど、収入は夫の名義で全部入ることがないようにしないといけない、女性の労働が男性の労働に吸収されてしまうのが一番の農業の問題点とされています。

竹内委員

私の所では、そういった問題は発生していません。

中村委員長

みなさま、ありがとうございます。それぞれの立場でご意見をいただきましたが、3つの柱を立てて関連付けて3つの方向で了解していただけたでしょうか。 <全員一致>

協議事項3 アンケート調査票について 【事務局より説明】

中村委員長

ご意見いただきたいと思いますが、その前に多様な性のところですが、ご存知でしょうか。LGBTは市民権を得てきていますが、なぜQがついているのか、Qはクエスチョニング

でどちらも決まらない、どちらでもない、性的思考も性自認もどちらでもない、その場その場で動く人の割合がわりと多いです。

SOGI というのは Sexual Orientation Gender Identity というのですが、Sexual Orientation 性的指向、Gender Identity 性自認、それに付け加えてほしいのが E です。性的指向と性自認に加えて、性的表現というのがプラスしています。せっかくなので、最新の E を入れてもらって、説明していただけたらと思います。

今は、LGBTQ という言い方もしません。なぜかというと、LGBTQ の人をマイノリティ、私たちとは違う人という表現になるからです。SOGIE の方はそうではなく、性的思考は男性に向いていて、性自認は女性、表現も女性という私も含めて SOGIE と言います。あなたはマイノリティ、私はマジョリティという線引きをしない。これは人権のところでも言われていて、部落差別、黒人差別、自分たちとは違うといった線を引かないのが SOGIE です。

皆、同じ集団の中にそういう傾向の人たちがいるよと、それをグラデーションという言い方をしていますが、皆混じり合っています。

性自認のトランスジェンダーと言われている人たちが、いつ自分の性自認が他の人とずれていると感じるかという、3歳、4歳、5歳くらいの就学前に自認します。保育園、幼稚園で男の子はブルー、女の子はピンクと言われていやな気分になったというのを覚えているんだと思います。大人だけの問題ではなく、生まれて時から3歳くらいで性自認が決まってきます。この調査を入れているのはとても新しい、個々の反響がどのくらいあるのかなと思います。

二つ目は、自由記述を各章ごとに入れていただけたほうが、生の声が聴けるのではないのでしょうか。数字に○をつけるのは集団に入ってしまうのですが、自由記述は生々しい声が出てきます。それを、見て欲しいと思っています。政策は誰のために打っているのかが大事だと思います。せっかく取めた税金を使ってやっているの、生の声を書けるようにしていただきたいと思っています。特に DV や家庭生活、色々出てきます。紙面の都合もあるかと思いますが、ぜひ入れていただけたらと思います。

皆さんは、どうですか。

淵脇委員

2,000名、無作為にやると偏ってくるのではという予想です。しっかり現状を取れるといいと思います。

中村委員長

無作為とは言いつつ年齢別、地域別に分けていく方法もあると思います。

事務局

具体的な抽出方法については検討中です。

中村委員長

どこでもそうですが、高齢者の方は律義に返してくれます。私が関わったところでも2,000名無作為で出して、大体40%返ってきます。数字のデータをみると、高齢者の方の割合が高いです。何とかできないかと思っています。

確かに高齢者世帯の問題も大事ですが、十年後、二十年後の社会を担う人たちや子育て世代の意見が聞きたいです。事務局で検討してほしいです。返ってくるアンケートの半数は高齢者です。今の子育て期の方たちに意見を書いてもらうことを事務局にしていきたい。

沼澤委員

これだけのデータがあると前回と対比しやすいとは思いますが、細かい字で沢山の量にするとお忙しい方は、読まれない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。これをみると結構なボリュームです。しっかり最後まで読んでいただけるかどうか、また返していただけるのかなと不安に思います。

中村委員長

学校などの固定した集団でアンケートをとるとほぼ100%返ってきます。書かないといけないう気になるからです。ただ、注意しなくてはいけないことは、前回の調査と比較していくことを考えると、適正ではなくなってしまうという点です。

馬渡委員

インターネットでの調査はできないのでしょうか。紙は紙として調査して、データはデータとして、設問も簡単に、保護者向けの調査として別枠で集計をとるとするのはどうでしょうか。

事務局

できるとすれば、紙ベースは2,000件で固定し、広報や市ホームページなどでこういう調査がありますとお示しして、別枠としての調査を行うことなら可能だと思います。ただ、周知の問題が出てくると思います。

馬渡委員

保護者向けにというのは難しいのでしょうか。市からの文章ではなく、園からのお願いの文章であれば回答もしてもらいやすいと思います。

事務局

園から配布することについては検討します。

中村委員長

インターネットを使ったアンケートは、IDの問題が出てきます。以前、たつの市がインターネットを使ったアンケートを行ったときに、一人の人が何度でもアクセスできてしまって、偏ったデータになってしまいました。IDの発行は大変です。便利なようで、不便な部分があります。ただ、国勢調査も今スマートフォンで答えられるようになっていきますし、国も推進していることなので、いずれはもっと普及していくでしょう。

谷勝委員

アンケートのまとめ方はどのようになりますか。

事務局

まとめ方については、クロス集計で年齢、性別に分けて、前回の設問との経年比較ができるようなまとめ方にします。

河原委員

問7の地区を聞く設問ですが、選択肢の10の在田を若い人は知っているのかなと思いました。また、問13のあなたは子どもにどのような能力を身につけてほしいですかのところでも能力という言葉が引っかかりました。「こと」の方が柔らかいかなと思います。

事務局

地区については、併記になりますが、「在田（泉）」とします。また、問13についてもご指摘のように修正いたします。

馬渡委員

就労・働き方について、加西市は女性の就業率が高いということで、なぜ働いているのかという理由を聞けたらよいと思います。生活費、やりがい、もしくは家にいると煮詰まるからという回答もあると思います。問20が近いかもしれませんが、何のために仕事をしているかが気になります。設問が難しいと思いますが、理由がわかれば問題解決につながるのではないのでしょうか。

沼澤委員

同感ですが、アンケートの対象者は高齢者や男性も含まれるので、設問をうまく表現しないといけないと思います。

中村委員長

働いている理由は案外リフレッシュが多いのではないのでしょうか。他には女性が働かないと生活できないなどでしょうか。

問 20 については、あなたは、なぜ働いているんですかと入れて、後でクロス集計すればわかります。次の質問で、あなたが現在仕事を選んだ理由は何ですかと 2 つを並べ、働いていない方はこちらですよというような形で表現すればよいのではないのでしょうか。事務局で検討いただけたらと思います。

馬渡委員

前回計画の 39 p 項目 4 の「あなたは女性の意見がどの程度市政に反映されていると思いますか。」の設問が、今回なくなっていますがなぜですか。

中村委員長

私の見解は、この問いはとても答えにくく、感情的なもので施策に反映しにくいです。私が事務局にいてもこの項目は省くと思います。事務局では、今度のプランでどんな施策を行っていくべきかというところから質問が出てきているはずなので、3本の柱の中で一番大事なものはワーク・ライフ・バランス、家庭内、職場内の女性活躍を大事にしますという中で、省かれてもおかしくないと思います。条例と違ってプランは変えられるので、今回は集中的にこれをプランにするのというのができます。今回は、3本の柱と言われたものを中心に焦点化した施策を打ちます。

事務局

削った理由としては、反映されている、されていないを聞いている問になりますが、反映させていかないといけないという方向性が大前提にあるため、どう落とし込んでいくかというところが中々難しいのではないかという話を事務局の中でもしておりました。どちらかという女性の管理職の登用など、他に聞きたい事があったため、ご質問のあった問については今回削らせていただきました。

馬渡委員

問 17 で①の「自治会や子ども会など男性が指揮を～」というところと③の「子ども会などの役員にもっと男性が増えた方が～」のところについてです。現状は私の地区の子ども会では女性ばかりなので、①に子ども会が入っていることに違和感がありますし、③との整合もとれないと思いますので、①では子ども会を省いた方がいいのではないのでしょうか。

中村委員長

自治会に女性がいないことが問題なのであって、ここで子ども会を入れてしまうとダブ

ルスタンダードになってしまいます。

馬渡委員

子ども会は女性がいますが、一方PTA会長は男性が多いのが気になっています。
園は女性が多いですが、小学校は男性が、という空気があります。

河原委員

規約上にはないと思いますが、校区によって若干違いがあると思います。副会長を選ぶときに次期会長に就いてもらうということで人選をされているところが多いのかなと思います。副会長を男女1名ずつ選んでいるところもありますが、男性の副会長は次期会長という前提で選ばれています。

中村委員長

原因は女性校長がいないからだと思います。女性校長率も大事だし、子どもや親への見え方も大事です。今、加西市には女性の校長がいません。女性校長率が上がったら、女性もリーダーができるという証明になると思います。

背中を押さないと女性は前に出ないです。子どもも一緒に、生徒会長をやりたいけど「女の子はやめとき」となると、そういう文化が生まれてしまいます。

「自治会」のみにして、「指揮をとる」を「主となり」や「男性が長となり女性が副となり」などとした方が柔らかいかなと思いますので、事務局で検討してください。

その他いかがでしょうか。最後にお一人ずつご意見をいただければと思います。

廣瀬委員

自由記述はいると思います。選択肢だけでは言えないことがあると思います。

河原委員

園で働く女性も一人の女性として家事と仕事を両立してがんばっていますが、一日10時間、11時間労働は当たり前、園長、副園長に至っては12時間労働が当たり前です。

そこもわかっていたきたいなど、それがどうしたら改善できるのかというところで、国も待機児童ゼロを目指していますが、そこで働く人、とにかくたくさん人がいるということを知っていただきたいです。保育教諭が不足していて、ずっと保育教諭を募集しています。

事務局

募集をかけても集まらないという現状です。

河原委員

労働条件がよくないので、辞めていってしまいます。

中村委員長

パートの保育士さんの時給は、レジ打ちをしている人よりも安いです。保育士は責任があるのに給料が低いという現状があります。

沼澤委員

2,000人のうち1%でもたくさんの方が回答して下さればよいなと思います。読むことによっても意識改革になるかもしれないので回答してほしいです。アンケートが目に残って、ちゃんと読んでくださることを願います。

谷勝委員

若い方も高齢の方もいるので、色々な家庭の方を助けてあげないといけない。育児についても、大変なことを分担してみんなでやっていかないといけないと思います。育児でお母さんだけが頑張らないといけないというのは、違うと思っています。

中村委員長

後100年で人口が半分になることを前提とした経済政策、少子化対策を打たないといけないです。はっきり言って少子化は止まりません。昔、不妊は女性のせいにはされていましたが、今は不妊の原因は男性の方の問題が大きくなっています。ブラック企業などでの働きすぎも考えられます。

最終的には人口減を止めたいし、女性も労働力として社会に出てもらわないと経済が成り立たないという状況です。

馬渡委員

アンケートを楽しみにしています。ぜひ、細かいところまで結果を見たいです。

以上